

未来の先生応援セミナー

1 教員採用試験とは

- ・大きく公立学校教員と私立学校教員に大別

【公立学校教員】

- ・都道府県教育委員会（政令指定都市では市教育委員会）実施の採用試験を受験
- ・採用試験合格後に各教育委員会名簿に登載

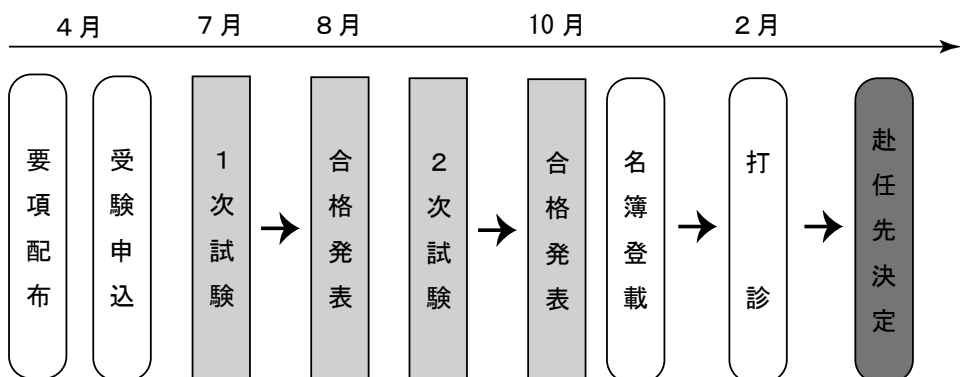
【私立学校教員】

- ・各学校による採用試験を受験
- ・私立学校教員適性試験を受験

2 受験資格

- ・教員免許取得者もしくは取得見込みの者
- ・一部自治体では教員資格試験受験予定の者も受験可能
（欠格事由に該当しない）

3 日程・スケジュール



（時期は自治体により異なる）

4 試験内容

- ・ 一般的に 1 次試験と 2 次試験に分かれる
- ・ 1 次試験は教養試験や専門試験などの筆記試験が実施される
- ・ 2 次試験は面接や討論（集団活動）などの人物試験が中心となる
- ・ 人物試験重視の傾向から一次試験でも人物試験（面接や論作文）を導入する自治体も多い

【教養試験】

- ・ 人文、社会、自然科学や時事知識を問う一般教養試験と、教員として必要な知識を問う教職教養試験に大別される
- ・ 一般教養試験は自治体により難易度が異なり、一部自治体は実施自体無いことがある（東京都や宮城県など）
- ・ 教職教養試験は、教育学、関連法規、心理学、教育の歴史、学習指導要領に関する知識、教育時事などが出題される
（教育原理、教育法規、教育心理、教育史と表されることが多い）

【専門試験】

- ・ 教科指導における専門的な知識を問う
- ・ 自治体により難易度が若干異なるが、平均すると大学入試レベルの出題が多い

【人物試験】

- ・ 面接は個人面接と集団面接があり、自治体により形態が異なる
- ・ 5 名程度の受験者が話し合いや作業を行う集団活動（討論）を実施する自治体が多い

【実技試験】

- ・ 体育、音楽、美術、理科を中心に指導に必要な実技力を問う実技試験を実施する自治体が多い（内容は各自自治体で異なる）
- ・ 授業力、教材解釈力、運営力を問う模擬授業や単元指導計画作成が課される

ことがある

【適性検査】

- ・ Y G 検査や MMP I など各種適性（人格）検査を実施している自治体があるが、対策等は特に必要はない

5 評価規準と倍率

- ・ 筆記試験の合格点は自治体や試験形式、教科等により大きく異なる
- ・ 人物試験では、熱意、専門性、人間性を評価し、細かい観点は自治体により公表されていることが多い
- ・ 知識量より人物、人柄を重視する傾向が強い（教員採用等の改善について～通知～ 23 文科初第 1334 号）
- ・ 全国的な動きとして採用者数を増加しているため倍率は低下傾向
- ・ 競争率は H27 年度選考で、5.4 倍
(小学校 3.9 中学校 7.2 高等学校 7.2 特別支援 3.8 養護教諭 7.3)
- ・ チャンスは年 1 回（併願は実施時期が近いため限定される）

6 大学 3 年生からはじめるメリットとは

- ・ 筆記試験対策が計画的に行える → 幅広く、徹底した学習ができる
- ・ ボランティアや教育体験が行える → 教員に必要な体験が多い
- ・ 自己分析にかかる時間がふえる → 魅力ある教員に近づける

□大学の講義で学んでおくべきこと

教師になりたいと考えている皆さんは、大学で「教育職員免許法」に基づいた講義を受け、日々夢に向かって努力されていることでしょう。そして、その実現のために多くの講義を受け、中には課題の提出に追われている人もいるのではないのでしょうか。

今、皆さんが大学で学んでいることは、教師になったときに、どのような場面で役立てることができそうですか。理論が分かっても実践するとなると簡単にはいきません。大学で学んだことを実践で役立てるためには、まず、教師としてどのような資質・能力が必要とされているのかを理解しておくことが大切です。

東京都教育委員会は、大学で皆さんに身に付けてほしい資質・能力を大きく3領域17項目にまとめました。皆さんが大学で受ける講義の中で、自分自身にどんな力が身に付いているのかを確認する意味で、是非参考にしてください。

領域① 教師の在り方に関する領域

(1) 教師の仕事に対する使命感と豊かな人間性

<到達目標>

子供に対する深い愛情と教育者としての自覚と責任をもち、子供のよさや可能性を引き出し伸ばすことができる力を身に付けている。

☆到達目標を目指して

- 「子供に対する深い愛情」とは、生命を慈しむ温かい心をもち、子供たちの喜びや悲しみを共に分かち合い、常に子供に寄り添い、学び、考え、遊び、骨身を惜しまず行動することです。そして、そのための研究と修養が常に求められます。
- 児童・生徒や保護者を含め、社会全体が「教育者」と呼ばれる人たちに対する信頼や期待をもっています。そして、その信頼と期待に応えるためには、あなた自身が「教育者としての誇り」をもつことが大切です。
- 児童・生徒のよさや可能性を伸ばすためには、児童・生徒の実態や状況を的確に把握する力を身に付けることが必要です。

POINT

「教師の使命感」、「豊かな人間性」といったようなことは、一朝一夕で身に付くものではありません。大切なことは、身に付けようと努力し続けるあなたの姿勢です。なぜなら、この二つは、教師として児童・生徒の前に立とうとするときにもっておかなければならない大前提だからです。

(2) 教師として必要な教養

<到達目標>

教師として必要となる社会人としての常識や教養を身に付けるとともに、生涯を通じて学び続ける学習者としての態度を身に付けている。

☆到達目標を目指して

- 児童・生徒に範を示すべき教師に、社会人としての常識が必要なことは言うまでもありません。
- 小学校では多くの教科を担当が教えます。例えば担任が「国語は得意だけど算数は苦手」と言って、算数の指導をおろそかにするのは児童が困ります。学習指導要領を踏まえて、各教科の基礎的・基本的な知識を身に付けなければなりません。
- 教育者だからこそ、自分自身を磨き続けることが大切です。国内外の政治経済や社会の動向、文化など常に新しい情報に触れながら、学び続ける教師でありたいものです。

POINT

教科書の内容だけを教えることが教師の仕事ではありません。児童・生徒が興味・関心を高めながら、自ら学ぼうとする姿勢を育成するためには、教師の豊かな知識や教養を根底に工夫あふれる授業を展開していく必要があります。

(3) コミュニケーション能力と対人関係力

<到達目標>

教師に必要なコミュニケーション能力を身に付け、児童、保護者、地域住民、同僚等との間に適切な人間関係を築くことができる。

☆到達目標を目指して

- コミュニケーションをとるための技術は様々あります。大学における全ての講義等で身に付ける努力をしましょう。最も大切なことは、あなた自身が進んで様々な立場の人々と積極的にコミュニケーションをとろうとする高い意欲をもつことです。
- 教師がコミュニケーションをとる相手は児童・生徒だけではなく、保護者、地域住民、同僚と様々です。相手によって対応の仕方が異なることを理解していなければなりません。
- 自ら進んで、上司への報告・連絡・相談をしたり、保護者からの相談に対応したりすることが、コミュニケーションのきっかけづくりとして有効です。

POINT

自分本位で相手を理解しようとしなない人は、コミュニケーションスキルが高まりません。教師の仕事はコミュニケーションそのものです。コミュニケーション

(4) 学校教育に関する法令等と学校教育の役割

<到達目標>

学校教育に関する法令等や教育委員会の教育目標等から学校教育の役割を理解している。

☆到達目標を目指して

- 教育基本法、学校教育法のほか、地方公務員法など押さえておくべき法令はいくつかありますが、学校教育そのものが法令根拠に基づいて行われていることを具体的に理解しておくことが大切です。
- 教育基本法や学校教育法を根拠に、都道府県教育委員会や区市町村教育委員会の教育目標が定められており、それらを踏まえて各学校の教育目標が作られています。基本方針や重点目標も含めしっかり押さえておきましょう。
- 授業等の教育活動において、新しいことに取り組むときや現状を改善するための方策等で困ったときなどは、よりどころを学習指導要領に求めることを習慣付けましょう。

POINT

例えば教員定数や教科書採択、教員の研修など、学校教育が、どのような法的根拠に基づいて行われているのか、確認しておきましょう。

□大学生活に期待していること

大学の4年間で皆さんは、授業やサークル活動（部活動）だけではなく、小学校や中学校でのボランティア活動、インターンシップといった社会体験など様々な場面を通して、多くのことを学ぶ機会をもつことができます。その中には、教師を目指す人間として身に付けるべき資質・能力を高める場面もたくさんあります。

ここでは、大学を卒業して間もない若手の教師たちからの、自身の経験に基づくアドバイスを中心に、学生生活の様々な場面を通して身に付けてほしい力を取り上げます。

サークル活動等

- ・仲間との友情やチームワークの大切さ
- ・考え方の違いがあっても、共通の目的に向かうことの大切さ
- ・活動に徹することで身に付けた特技
- ・組織運営のための折衝力、リーダーシップ
- ・運動部で身に付けた体力
- ・学年に応じて求められる役割を果たす対応力
- ・相手の気持ちを読み取ろうとする態度
- ・チャレンジ精神

学校ボランティア

- ・子供たちとの関わり方
- ・発達段階の理解や児童の実態の捉え方
- ・授業の組み立て方や教材研究の仕方
- ・子供の興味・関心の高め方
- ・子供との遊び方

社会体験等

- ・浅く広い知識
- ・気配りや心配りの仕方
- ・場面に応じた態度
- ・積極性や客観性
- ・感謝の心
- ・服装、身だしなみ、礼儀、挨拶

- ・コミュニケーション能力
- ・統率力
- ・忍耐力
- ・組織貢献力

☆ 「サークル活動等」や「学校ボランティア」「社会体験」などの経験を通して特に「コミュニケーション能力」「統率力」「忍耐力」「組織貢献力」等が身に付いたという人が多いようです。

先輩からのアドバイス
—こんな経験が教師の仕事に役立っています—

サークル活動等

- 多様な仲間が集まる組織の中で、目標を定め、困難を乗り越えながら活動することで、多くの得るものがありました。
目標が達成されれば喜びがあり、更なる高い目標を目指しますが、たとえ達成されなくてもそこで感じる悔しさや挫折もとても貴重な経験となっています。
- 合宿の企画や宿泊先との折衝、他団体との交渉等、様々な調整事項があり、その対象者も必ずしも同世代ではないので、実践的に折衝力を高めることができました。
- 1年生で雑務、2年生で後輩の指導、3年生で学年間の調整役、4年生は最終責任者と、学年進行に応じて果たすべき役割は異なり、これらのことを経験できたことは、社会でどの立場になっても役立ちます。
- 何か一つ「これはできる。」「負けない。」という特技をもてると、人間関係が広がります。
- 先輩に対する挨拶、言葉遣いや礼儀など、人と関わりをもつ上で欠かせないスキルを身に付けることができました。

学校ボランティア

- 教育実習とは違った視点で、じっくり子供に関わり、客観的に学校の様子を見ることができます。
- いろいろな学年の子供たちと関わるので、学年の発達段階の特徴や児童理解の仕方を学ぶことができます。
- 多くの先生方の授業参観ができるので、授業づくりの参考になりました。

社会体験等

- 言われたことだけをするのではなく、自ら行動しようとする積極性や、相手の立場や事情を察して冷静に行動しようとする客観性が身に付きます。
- アルバイトでサービス業やものづくりなどを経験すると、浅く広く知識が身に付き、子供たちに話す内容が増えました。また、報酬を受けることで、働くことの価値や仕事に対する責任を感じることができました。

コミュニケーション能力

- サークル活動、ボランティアや社会体験等の多くは、人との関わりの中で行われるものです。そこでこれらの経験を通して、多くの人が「コミュニケーション能力」を身に付けることができているようです。新しい人との出会いの中で多様な価値観に触れ、相互理解を深めていくような体験はとても有意義です。
- 例えばサークル活動は、基本的には多様な考えをもつ人たちの集まりですが、その上で統一の目標を定め、その達成を目指して力を合わせるところが、学校と共通している面だといえます。

統率力

- 「統率力」は、東京都教育委員会が示す、授業力の六つの構成要素としても取り上げられているように、教師として身に付けるべき大切な力です。この「統率力」もコミュニケーション能力と同じように、人との関わりの中で身に付くものといえます。
- 「コミュニケーション能力」と違って「統率力」には「まとめる」「率いる」といった、リーダーシップを発揮するという要素があります。学級担任は子供たちにとっては、大きな意味でリーダーといえますから、子供の信頼を得るためには「統率力」をもった教師でなければなりません。
- サークル活動やボランティアなどを通して人との関わりの中で、立てた目標の達成に向けてよりよい活動にしていこうとする振る舞いや発言、行動の繰り返し、その過程そのものが、「統率力」の源になります。

忍耐力

- 苦しさや辛さに耐える力を「忍耐力」といいますが、サークル活動やボランティア活動等の場面に当てはめると、まずは続けることが大事なことです。多様なサークル活動を経験したり、様々なボランティア活動をしたりすることも貴重な経験といえますが、「忍耐力」はそれらの「持続」によって生み出されるものです。
- 苦しさや辛さに耐えるためには、目標設定が重要です。例えば、「スポーツ等の大会で優勝する。」という目標達成のために続ける練習は、大変過酷なものです。確固とした目標が自分の行動を支えることになります。サークル活動を通してできる貴重な経験です。

組織貢献力

- 「組織貢献力」は、東京都教育委員会が「教員に求められる基本的な力」として示した力のうちの一つです。サークル活動や学校ボランティア、社会体験などに進んで参加して、その組織の一員として貢献することに取り組んでみましょう。
- 組織に貢献しようとする気持ちは、組織の一員として「自分が役に立った。」というような成功体験が基になって高まります。自分の努力が、組織に貢献していることを実感できたときに、その後の行動の原動力になります。